

モモ栽培における新梢摘心と新梢生育

福島県果樹試験場栽培部
平成13年度試験研究成績書

1 部門名

果樹－モモ－整枝・せん定
分類コード04-02-08000000

2 担当者

志村浩雄・渡邊栄子

3 要旨

モモの若木時代における新梢管理手法(樹冠内部の徒長枝処理)として、新梢摘心の時期と方法について検討した。この結果、新梢の摘心は満開後40日、80日、150日頃に樹冠内部の30～50cm以上に伸長した主枝背面の新梢を、5cm程度残してせん除することにより、徒長枝の発生と主枝の上げ上がりを防止できた。

- (1) 新梢摘心で残す新梢の長さを5、10、15、20cmで比較したところ、残す長さが長いほど二次伸長の発生が多く、生長も旺盛となった。
- (2) 摘心の時期について、満開後40、50、60、70日で比較したところ、時期が早いほど二次伸長枝の発生が少なく、生長も比較的小さかった。また、摘心後二次伸長枝の再摘心が必要となるのは、摘心後30～40日頃であった。
- (3) 摘心後発生する二次伸長枝は、葉芽、花芽ともに着生するが、花芽の割合は少なかった。
- (4) 以上の結果から、新梢の摘心は満開後40日頃(仕上げ摘果時)に、主枝の背面など樹冠内部の30cm以上伸長した新梢を基部5cm程度を残して摘心し、以後、満開後80～90日頃および150日頃に30～50cm程度に伸長した新梢を再度摘心することにより、樹冠内部の徒長枝の発生を制限できることが確認された。

4 その他の資料等

なし